

身近な化学工業製品 7

化粧品

私たちの生活に、“華やかさ”と“喜び”を提供してくれる化粧品。さらに、“健康な肌”へと、化粧品の追求と挑戦は続く。



✕ “美しく装う”から“健康な肌”へ

“化粧”の歴史は、紀元前3000年～2500年にさかのぼる。化粧には、“美しく装う”だけでなく、儀式や慣習的な風習、宗教的な意味が込められた時代もあった。やがて、時代が落ち着くにつれて美しく装うことに、より強い目的が置かれるようになった。そして化粧品は、美しく装うために不可欠な道具として発展してきた。現在では、老若男女を問わず、ほとんどの人が何らかの化粧品を使用しているほど、深く生活に入り込んでいる。

近代に入って化粧は、美しく装うという当初の目的に加えて、“みずみずしい健康な肌へ”という皮膚が本来もっている生理機能を促進させることに力点が置かれるようになってきた。外見的美しさだけでなく、健康な肌、さらには人間的な内面の美しさにも効果を与えるような化粧品の開発が進められている。

✕ 環境悪化から肌を守る

人類にとって、“老化”は古代からの大きな関心事であった。どうすれば、“老化”が防げるのか？これは、今にいたるまで解決されていない人類の永遠のテーマといえるかもしれない。

化粧品もまた、永遠のテーマに取り組んでいる。皮膚の老化のメカニズムを探求し、その予防や皮膚が本来もっている生理機能の回復を促す成分を

解明し、それを配合した化粧品も登場した。

皮膚の老化は、紫外線が大きく関係すると考えられている。紫外線を効果的にコントロールすれば、老化を20年遅らせることも可能だといわれるほどだ。現在、地球環境の悪化が叫ばれるなかで、オゾン層保護が世界的にも高い関心を集めている。オゾン層は、太陽からの有害な紫外線を、直接、地球上に到達しないように吸収してくれる。オゾン層が破壊されていくと、健康な肌に悪影響を及ぼすだけでなく、皮膚がんが増加するともいわれる。

オゾン層破壊の影響だけではないが、有害な紫外線から肌を守るために、UV（紫外線）カット成分を含んださまざまな化粧品が、次々に開発されている。近い将来、化粧品も、予防的な機能を持った商品への期待が高くなるかもしれない。

✕ 先端技術による新成分の開発

化粧品に含まれる成分は、その機能を発揮する最もたいせつな要素である。したがって、新成分の開発には高度な最先端技術が応用されている。有機合成技術はもとより、無機化学やバイオテクノロジー、セラミックス技術、さらには超微粒子技術など、小さな化粧品容器の中には、各種の最先端化学技術が凝縮されているというわけ。

また、成分開発を支えているのは、ほかならぬ皮膚科学である。皮膚の構造やメカニズムの解明、そして必要な成分の研究が続けられている。



化学技術最先端

化学と手を組む**化粧品**の 新しいコンセプトは“自然志向”

化学技術で生まれる新成分

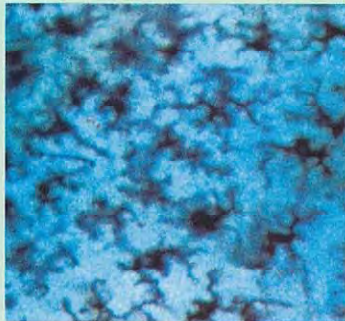
毎年、多くの新しい化粧品が店頭で登場しているが、これらの商品には、合成化学の技術によって開発された新しい成分が配合されている。コラーゲンやヒアルロン酸ナトリウムなどがその代表で、これらは保湿効果を高める成分として重宝されている。

また、新成分の開発だけでなく、数種類の成分を組み合わせ、目的とする機能を発揮させるようにする技術の開発も進められている。これも、化粧品会社の重要な研究開発のひとつである。

成分開発と同様に、皮膚科学もたいせつな位置を占めている。化粧品が、医療の分野に近づくのともなって、医薬品と同じ成分を使用するケースが増えてきている。

化学の力でナチュラル宣言

最近、化粧品の多くが“ナチュラル”をアピールするようになってきた。テレビのCMでも、



紫外線を浴びていない正常な肌。細胞も、美しい形をしている(左)。右は、紫外線を浴びてダメージを受けた肌。細胞の形はくずれ、数も減少している。日焼け止め化粧品を塗ると、左のような肌が保てる。



女性の美しさも化学技術の成果？

天然成分や植物成分といった表現が盛んに使われている。

これは、化学合成の力で、天然の植物や種子の成分の働きを化粧品へ応用できるようになったからだ。化粧品に含まれる肌をいたわりながら汚れを落としてくれる界面活性作用には大豆やトウモロコシ、防腐作用にはムクロジなどの天然種子の成分の働きが応用されている。

こうした流れに沿って、古来から薬用として使われてきた植物エキスの化粧品使用の研究も

活発化している。また、漢方薬やハーブ類などの化粧品併用の研究も盛んだ。

広がる化粧品の世界

日本は、紅・白粉(おしろい)と髪につけるつばき油が化粧品の代表であった時代が長かった。しかし、生活様式の変化とともに、最近ではスキンケア、メイクアップ、ヘアケアなどを中心に、それぞれの目的に応じた機能を持つ化粧品が誕生。

と同時に、皮膚科学の発達とともに、単に“装う”ことから皮膚の持つ機能の活性化へと変わってきている。

これまで女性のものであった化粧品が、男性の世界に深く入り込んできた原因は、そのあたりにあるのかもしれない。こうした傾向は、将来的にはもっと強くなるだろうし、同時に化粧品には今以上に治療や予防など、さまざまな機能と要素が加わってくるにちがいない。

